

蓬左

HÔSA No.37

名古屋市蓬左文庫
Nagoyashi Hôsabunko

1989. 4

歸去來辭

自^リ以^テ心^ヲ為^ス形^ノ役^ニ、田園將^ニ蕪^レ胡^ノ不^レ歸^ヲ。既^ニ悟^リ已^ニ往^リ之^ヲ不^レ諫^ス、知^ル來^ル者^ノ之^ヲ可^キ追^フ。實^ニ迷^リ塗^ニ其^ノ未^ダ遠^ニ、覺^ス今^ニ是^レ而^{シテ}昨^ノ非^ニ舟^ノ搖^リ、以^テ前^ニ路^ヲ恨^ム晨^ノ光^ノ之^ヲ熹^ム微^ニ。

昌^任從^夫姓^程氏^也情^在駿^奔自^免去^職仲^秋至^冬在^官八^十餘^日因^事順^心命^篇曰^歸去^來兮^乙已^歲十^一月^也

歸^去來^兮田^園將^蕪胡^不歸^兮自^以心^為形^役矣^惆悵^而獨^悲悟^已往^之不^諫知^來者^之可^追寔^迷途^其未^遠覺^今是^而昨^非舟^搖遙^以輕^颺風^飄飄^而吹^衣問^征夫^之熹^微暮^也乃^瞻衡^宇載^欣載^奔僮^僕歡^迎稚^子候^門三^逕就^荒松^菊猶^存下^輔快^錄云^蔣舍^中竹^遊仲^也從^之携^幼入^室有^酒盈^罇引^壺觴^以自^酌眴

歸去來辭

歸^りな^んい^ざ、田^園將^に蕪^{れん}と^す、胡^ぞ歸^らざ^る。既^に自^ら心^を以^て形^の役^と為^す、奚^ぞ惆^悵して^獨り^悲し^{まん}。已^往の諫^められ^{ざる}を^悟り、來^者の追^ふべきを^知る。實^に塗^に迷^ふこ^と其^れ未^だ遠^{から}ず、今^の是^にして^昨の非^{なり}しを^覺る。舟^は搖^揺として^以て^輕く^颺がり、風^は飄^飄として^衣を^吹く。征^夫に^問ふに^前路^を以^てし、晨^光の熹^微なるを^恨む。

箋註靖節先生集 李公煥箋註 万曆11年(1583)刊 11卷2冊

(37.2×22.2cm)

中国晋時代(3・4世紀)の詩人陶淵明(356~427、諱は潜、世間では靖節先生として通っていた。)の文集。とくに「歸りなんいざ、田園將に蕪れんとす。」ではじまる上記の「歸去來の辞」は有名。

本書は、15・16世紀に、世界的にも最先端の印刷技術を誇った朝鮮の李王朝による金属活字印刷物。一つ一つの活字が鮮明であるだけでなく、晋代の秀書家衛夫人の字に似ているとされる1434年に鑄造された甲寅活字(鑄造された年の干支からこう呼ばれた。)を使用しており、無駄のない均整のとれた美しさを持っている。

なお、この金属活字印刷の技術は、文禄、慶長の役(1592~98)の戦利品として流入した多くの書物とともに我国に伝えられ、日本の印刷技術、出版文化に多大な影響を与えた。

書物のデザイン

～Ⅰ. 書物の美～

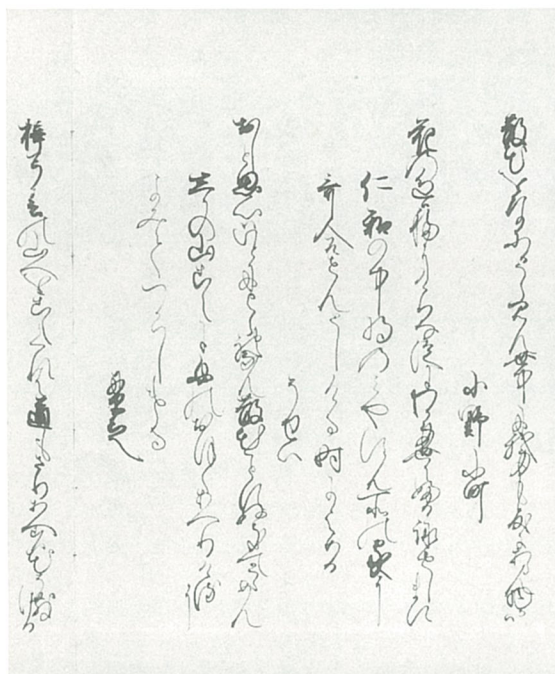
デザインという言葉、日本語でさがすと、「意匠」「匠意」がこれにあたります。これは、そもそも漢語で、工夫する、考案するという意味があります。つまり、デザインとは、目的達成のために工夫することであり、それゆえに、美しい形の追求にもなるといえましょう。

書物の目的は、文字や絵によって、人間の知識や文化を、広くしかも、幾世代にもわたって伝えることにあります。この目的をよりよく達成するために様々な工夫がこらされてきました。文字や絵を記す材料も、金属や石、木、布から紙の発明によって、手がるに遠方まで知識や文化を伝えることができるようになりました。紙は、はじめ何枚かを欄ではりつぎ、巻いた状態（卷子本）で書物として使用されましたが、読みたい箇所をすぐにとり出せるようについで紙を折ることが考えられました（折本）。これも、折がきれやすいことや紙をつぐことの不便さから、1枚の紙を折って重ね、折目側に欄づけして表紙を加えた現在の書物に近い形のものがつくられました（粘葉装）。とくに我国では、この欄づけする方法から、紙を数枚重ねて折り、この折り目どうしを、数枚ごとに糸で綴じ合せる方法（綴葉装）が工夫され、和歌や文学書の多くがこれによっています。さらに、1枚の紙を二つ折にして重ね、折り目と反対側を綴じする方法（袋綴、中国では線装本）が中国で考案されると、丈夫で、補修がしやすく、印刷に適していることから、日本でも江戸時代のほとんどの書物にこの方法が用いられました。

一方、書物は、はじめ書き写すことによって伝えられ、はっきりと正確に写すだけではなく、内容によっては、書体の美しさも重視されるようになりました。しかし何より書物の普及に貢献したのは、印刷技術の開発であり、これによって書物の量産が可能となったのです。量産にたえる鮮明で美しい活字、優美な描線を求めて、ここでも工夫がくり返されたはずで、その結果の一つとして、江戸時代の出版文化は大衆化し、庶民はあざやかな錦絵の挿絵入りの草双紙を楽しむことができたのです。

もちろん、実用の美だけではなく書物に関わる装飾の美しさも重要です。表紙、題簽、料紙、綴糸、容器等々に施された意匠、とくに和歌や物語の書物においては、優美な書と融合して華やかな世界が形成されました。

今回を第1回として、来年の3月まで、当文庫では、こうした書物のデザインを様々な側面から四回に分けて御紹介します。



二十一代集 江戸初期写 400巻48冊

散花をなにかうらみん 世中に我身も友に
あらん物かは 小野小町
花の色は移りにけりな徒にわか身世にふる
詠せし中に 仁和の中将のみやすん所の家に
歌合せんとしける時によめる
おしと思心はいとによられなん 散花ことに
ぬきてとゞめん しかの山ごえに 女のおほくあへりけるに
よみてつかはしける 貫之
梓弓春の山へをこえくれば 道もさりあへず
花ぞ散ける

二十一代集 江戸初期写 400巻48冊(23.4×16.9cm)

「古今集」(908～913年頃)から「新続古今集」(1439年)まで、21編の勅撰集を総称して「二十一代集」と呼んだ。左は、「古今集」巻二春の歌下の内、小野小町、紀貫之等が桜を詠んだ歌の部分。小町の「花の色…」はとくに有名。

本書は八条宮智仁親王(1579～1629、当時の第一級の文化人、同家の別荘桂離宮の最初の主でもある)の筆とも伝えられる能書家の手になる写本。ぼたん、藤、紅葉を散らした金欄に金泥の絵模様の題簽の表紙とともに綴葉装に仕立てられた気品の美しい書物である。

「書物のデザイン ～I. 書物の美～」 出品目録

〈卷子本から冊子本へ〉

1. 続日本紀 卷一至十 10巻
菅野真道等編
慶長17年写
2. 侍中群要 10巻
橘広相
寛永元年写
3. 大般若波羅蜜多經 1巻
唐 玄奘
日本 鎌倉期刊（春日版）
4. 大唐西域求法高僧伝 1帖
唐 義浄
慶長19年刊（古活字版）
5. 大蔵目録 3帖
慶長18年刊（古活字版）
6. 古今和歌集注 2冊
（昭和6年貴重図書影印刊行会複製）
仁治2年写
7. 斎宮女御集 1冊
徽子内親王
6. 清原元輔集（昭和17年育徳財団複製） 1冊
鎌倉時代写
9. 空徳物語 20巻20冊
江戸初期写
10. 保元物語 2巻2冊
慶長年間写
11. 平治物語 3巻3冊
慶長年間写
12. 日本書紀神代卷 2巻2冊
舎人親王等
慶長14年写
13. 神祇宝典 9巻附図1巻10冊
徳川義直
正保3年写
14. 十七史 1594巻268冊
明 毛晋校
清代刊

〈書之美・活字之美〉

15. 土佐日記 妙寿院本 1冊
紀貫之
江戸初期写
16. 竹取物語 1冊
江戸初期写
17. 伊勢物語 武田本 1冊
室町時代写
18. 大倭物語 2冊
明徳5年写
19. 源氏物語（松風） 1冊
鎌倉時代写
20. 源氏物語（たけ河） 1冊
鎌倉時代写
21. 源氏物語（総角） 1冊
鎌倉時代写
22. 源氏物語（浮舟） 1冊
鎌倉時代写

23. 源氏物語 青表紙本 54巻系図1巻55冊
天正8年写（里村紹巴等寄合書）
24. 大鏡（世継物語） 3冊
室町時代写
25. 今昔物語集 31巻28冊
江戸初期写
26. 東鏡 55巻69冊
江戸初期写
27. 万葉集 20巻20冊
江戸初期写
28. 三十六人歌集 36巻36冊
藤原公任編
江戸初期写
29. 古今和歌集 20巻1冊
紀貫之等編
室町時代写
30. 新古今和歌集 20巻2冊
藤原定家等編
室町時代写
31. 和漢朗詠集 2巻2冊
藤原公任編
室町時代写（山崎宗鑑筆）
32. 二十一代集 400巻48冊
江戸中期写
33. 自然斎発句 1冊
釈宗祇
室町末期写
34. 連歌延徳抄 1冊
猪苗代兼載
明徳5年写（自筆本）
35. 源平盛衰記 48巻24冊
慶長年間刊（古活字）
36. 方丈記 1冊
鴨 長明
慶長年間刊（同）
37. 伊勢物語 2冊
江戸初期刊（同）
38. 保元物語 2巻2冊
江戸初期刊（同）
39. 平治物語 3巻3冊
江戸初期刊（同）
40. 源流臨江抄 20冊
里村紹巴
寛永年間刊
41. 八代集 140巻8冊
江戸中期刊
42. 夫木和歌抄 36巻目1巻37冊
寛文5年刊
43. 類題和歌集 31巻31冊
後水尾天皇編
元禄16年刊
44. 徒然草 2冊
屋代弘賢校
江戸末期刊

45. 箋註靖節先生集 11卷2冊
晋 陶潜 宋 李公煥箋註
万暦11年刊(朝鮮古活字・甲寅字)
46. 南軒先生文集 44卷13冊
宋・張栻
万暦2年刊(朝鮮古活字・甲寅字)
47. 内訓 2卷2冊
朝鮮 昭恵王后
万暦元年刊(朝鮮古活字・乙亥字)
48. 資治通鑑綱目 59卷序目1卷150冊
宋 朱熹 朝鮮 李季旬等訓義
正統3年序刊(朝鮮古活字・丙辰・甲寅字)
49. 歴代君鑑 50卷10冊
明 景宗
景泰4年刊
50. 五倫書 62卷31冊
明 宣宗
正統12年刊
51. 白氏文集 71卷18冊
唐 白居易
元和4年刊
52. 史記 130卷46冊
漢 司馬遷
慶長年間刊
53. 康熙字典 41冊
清 張玉書等
安永9年刊
54. 延喜式 50卷50冊
藤原忠平等 松平斎恒校
江戸末期刊
- 〈表紙と料紙〉
55. 源氏物語 青表紙本 54卷目2卷56冊
室町末期写(伝貞敦親王等寄合書)
56. 源平盛衰記 48卷目1卷48冊
慶長16年写
57. 八代集 140卷14冊
江戸中期写
58. 詠草 二百五十首 1冊
江戸中期写
59. 法楽和歌 1冊
佐久間景矩等
江戸中期写
60. 四季要集 1冊
江戸中期写
61. 秘藏集 1冊
江戸中期写
62. 伊勢物語 武田本 五色料紙本 1冊
江戸初期写
63. 三部抄 1冊
詠歌大概 秀歌の大略 未来記
小倉山庄色紙和歌 雨中吟
64. 和歌之読方 1冊
宝永2年8月元浩写
65. 西園寺相国家鷹百首和歌 1冊
西園寺公経
江戸中期写
66. 百人一首 1冊
藤原定家編
江戸中期写
67. 名所の和歌 1冊
江戸中期写
68. むしの歌合 1冊
江戸中期写
69. 器恋歌合 1冊
江戸中期写
70. 琵琶譜 伏見宮本(複製) 1巻
平安時代写
71. 入木秘書(昭和14年育徳財団複製) 1冊
尊門親王
慶安2年写
72. 古今和歌集(複製) 1冊
平安時代写
73. 藤原定頼集(昭和17年育徳財団複製) 1冊
鎌倉時代写
74. 入道右大臣集(昭和17年育徳財団複製) 1冊
藤原頼宗
平安時代写
- 〈絵本の発達〉
75. 三国志伝通俗演義 12巻6冊
元 羅本
万暦19年刊
76. 李卓吾先生批評三国志 16冊
同 李贄批評
明代刊
77. むしのうた合 1冊
(大正14年稀書複製会複製)
寛永年間刊(古活字)
78. 新板絵入物ぐさ太郎 2巻2冊
(昭和9年稀書複製会複製)
寛文5年刊
79. 絵入好色一代男 8巻8冊
(大正15年愛鶴書院)
天和2年刊
80. 修紫田舎源氏 12巻4冊
柳亭種彦 歌川国貞画
文政11至天保13年刊
81. 南総里見八犬伝 101巻106冊
曲亭馬琴
天保年間刊
82. 絵本青楼美人合 5冊
(大正6年風俗絵巻図画刊行会複製)
明和7年刊
83. 絵本東わらは 2巻2冊
(大正6年風俗絵巻図画刊行会複製)
南柚笑楚満人作 歌川豊広画
文化元年刊

6. 蓬左文庫三十年^{注1}

注1) この文章は、「蓬左第1号」(1980年4月刊)掲載分の再録です。

注2) 1989年4月現在、嘱託2名(調査研究員)。

蓬左文庫は、旧尾張徳川家の文庫として、近世名古屋文化のひとつのシンボルであった。蔵書の大部分は、和漢の古典・古文書・古絵図・尾張関係の資料などで、とくにその種類が豊富なことは、他に類例がすくない。ことしは、その蓬左文庫が名古屋市に移管されてから満30年にあたる。戦火の跡がまだなまなましく各所に残る昭和25年、名古屋市は、学術文化施設拡充の一石として、その購入にふみきり、当時、東京の財団法人(徳川)黎明会に属していた文庫は、名古屋市東区徳川町の現在地に移された。しかし、もともと、名古屋城(別名を蓬左城という)二の丸を発祥の地とする文庫としては、ふるさと、へもどったことになる。現在地の葵公園(徳川園)も、かつての徳川邸跡で、明治・大正を通じて、文庫が存在したゆかり深いところである。

さて、文庫の「帰郷」は、地元の学界から大きな歓迎をうけ、「郷土文化」は「蓬左文庫研究号」を特集し、新聞などにも「名古屋の誇り」とにぎにぎしく報道された。しかし、文庫の急務は、何よりも、蔵書の再整理と公開の準備とであった。当初、文庫は教育委員会社会教育課に属したが、職員・設備・予算など、いずれも不十分なことは、実情として、やむをえなかった。翌26年2月、ともかくも、おひろめの特別展が徳川美術館で開かれ、秘蔵の貴重図書の初展示とあって、学界・一般を通じて入場者が多く、盛会のうちに終了した。それから半年の後、11月、開館の運びとなり、以来30年間、一時は鶴舞中央図書館の分館、次には公所として独立、現在は市博物館の分館になるなど、所管はかなり変動したが、文庫は文庫なりに、多くの業績を挙げてきたといえる。

現在の事業は、資料の閲覧や複写、展示会の開催、目録や図録などの編集・出版、その他各種の参考事務など、その種類も量も大幅に増加しつつある。これらは、蔵書や利用度の増大と関連しているが、その基盤には、貴重な古文書の保守という大切で手のかかる仕事があり、保存と利用と、相反す両面の調整が、つねに課題となっていることをアピールしておきたい。なお、現在の職員数は、文庫長(兼任)のほか、主事・司書・学芸員各1名、それに嘱託(調査研究員)^{注2}1名である。

ことしは、市移管・公開30周年記念事業として、さきに好評をえた「名古屋叢書」の続刊や「蓬左文庫名品展」(会場・博物館)などが予定され、いよいよ繁忙を加えることが予想される。本文庫も、ようやくその評価と知名度を高めつつあるが、今後は「地方の時代」の推進にも、学術文化方面の一端をになうものとして期待されよう。これらの点をもふくめて、さらに大方のご理解とご支援がいただけるならば、これに過ぎる幸いはない。

織茂三郎(元蓬左文庫調査研究員)



文庫発送の日(昭和25年9月)

写真右より

織茂三郎(のち蓬左文庫主事)
杉浦二郎(のち蓬左文庫主事補)
大野正義(現在杉山、当時社会教育課文化係主事補)
舟橋寛治(市立名古屋図書館主事)
加藤道男(社会教育課文化係長)
水野光国(同文化係兼務主事)
の各氏。

★次回展示のお知らせ

書物デザイン～Ⅱ. 絵本の楽しみ～
～Ⅲ. 表紙の意匠～
～Ⅳ. 和歌と物語の世界

2/15

8月19日(土)～9月17日(日)
9月30日(土)～11月30日(木)
1月13日(土)～3月18日(日)

出版物一覽

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S . 50年刊)	3,500円
名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S . 51年刊)	4,000円
名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(同)	2,500円
尾崎久弥コレクション目録第一～三集	各 1,500円
名古屋叢書(正編)索引・総目録(S . 53年刊)	2,000円
名古屋叢書続編 索引(S . 47年刊)	700円
名古屋叢書続編総目録(S . 44年刊)	400円
善本解題図録第一～三集(S . 55年再版)	各 300円
日本の古典<蓬左文庫図録>(S . 52年刊)	200円
蓬左文庫・源氏物語図録(S . 53年刊)	300円
蓬左文庫所蔵古地図複製 No.1～No.15(S . 55～61年刊)	各 1,800円

- 1.尾府名古屋図 2.尾州名古屋御城下之図 3.名古屋図
4.尾張八郡図 5～15 尾張志付図
5.尾張国 6.愛知郡東 7.愛知郡西 8.春日井郡 9.智多郡 10.熱田 11.丹羽郡 12.海東郡 13.海西郡 14.中島郡 15.葉栗郡

御本印型書鎮(S . 58年製)	1,000円
堀田文庫蔵書目録(S . 58年刊)	500円
蓬左文庫絵葉書<8枚組>(同)	300円
蓬左文庫図録(同)	1,500円
蟹江慶次郎旧蔵書目録(S . 62年刊)	500円

名古屋叢書三編 全19巻20冊(S55～63年刊)各3,000円

1. 尾張徳川家系譜
2. 尾藩世記 上
3. 同 下
4. 士林派澗統編
5. 尾張年中行事絵抄 上
6. 同 中
7. 同 下
8. 張州年中行事鈔・尾張俗諺・尾張童遊集
9. 松涛棹筆(抄) 上
10. 同 下
11. 楽寿筆叢・十如是独言
12. 荷の滴 諸家雑談・家事雑識
13. 天保会記鈔本
14. 金明録
15. 尾張方言・水かはり・浪越方言集・宮説言葉の掃溜
雅語訳解・俗語弁
16. 横井也有全集上(発句・和歌編)
17. 同 中 (俳文・俳論俳話編)
18. (1) 同 下(1)(連句・漢詩文編)
18. (2) 同 下(2)(狂歌・談義・伝記資料・追加・参考編)
19. 物品識名・物品識名拾遺・本草会物品目録・泰西本草名疏

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

利用ご案内

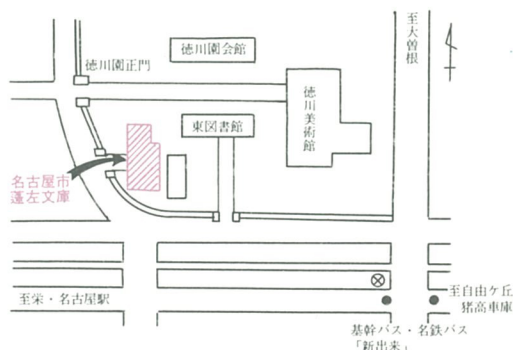
- ▷開館時間 午前9時30分～午後5時
- ▷休館日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)
- 祝日 (日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
月曜 〃 月・火休館
- 年末年始(12月28日～1月4日)
- ▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません
(閲覧料) 普通図書 無料
重要図書 有料(1部350円)
- ▷展示 随時蔵書の一部を展示
(特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 普通図書のうち、保存上影響のないものについて複写サービスを行います。その他、マイクロフィルムの利用、写真撮影の申請を受け付けますので、ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市中区東区徳川町1001番地

☎(052)935-2173

〔名古屋駅から〕市バス(基2)「自由ヶ丘」「猪高車庫」行
名鉄バス「本地ヶ原方面」行
〔栄から〕市バス(基2)「引山」「自由ヶ丘」
「猪高車庫」行
「新出来」下車、徒歩4分



「蓬左」第37号 ☆平成元年4月15日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)

☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷株式会社(東区泉2-3-18)